

事項	うめとあんずの灰星病は葉及び果実に赤褐色の斑点を生じる		
ねらい	うめとあんずの葉及び果実に発生している赤褐色斑点を検討した結果、これまで我が国で報告のない灰星病による症状であることが明らかになったので参考に供する。		
指導参考文献内容	<p>1 症状</p> <p>(1) 葉：針頭大～1.5mmの赤褐色斑点を生じる。中央部に針頭大～0.5mmの灰白色～黒褐色斑点を伴うことがある。病斑は、葉身の伸展に伴いせん孔する。</p> <p>(2) 果実：針頭大～1.5mmの赤褐色斑点を生じる。中央部に針頭大～0.5mmの灰白色～黒褐色斑点を伴うことがある。表面は平滑～やや凸状で、そうか状となるものもある。</p> <p>2 病原菌</p> <p>本症状を引き起こす病原菌は、ウメ及びあんず灰星病菌 (<i>Monilinia fructicola</i>) である。</p> <p>3 防除対策</p> <p>「落花直後」に有効薬剤の散布を徹底する。灰星病の花腐れや幼果腐れは見つけ次第摘み取り、土中に埋めるなど処分する。</p>		
期待される効果	本症状の原因が明らかとなったので、適切な診断と防除対策が可能となる。		
利用上の注意事項	本症状は、かいよう病やせん孔細菌病と類似するが、初期病斑が水浸状とならない、また、果実に亀裂や窪みを伴わないので区別できる。		
担当部署 (担当者名)	青森県農林総合研究センターりんご試験場県南果樹研究センター (小笠原博幸)	対象地域	県下全域
発表文献等	平成19年度 青森県農林総合研究センターりんご試験場県南果樹研究センター試験研究成績概要集 平成19年度 北日本病害虫研究会 (発表予定)		

【根拠となった主要な試験結果】



写真1 葉の症状

(注) 左：うめ自然発病葉「豊後」、中；うめ接種葉「豊後」、右；あんず接種葉「新潟大実」



写真2 果実の症状

(注) 左：うめ自然発病果「豊後」、中；うめ接種果実「豊後」、右；あんず接種病徴果実「新潟大実」



写真3 類似症状

(注) 左：ウメかいよう病「豊後」、 右：アンズせん孔細菌病「八助」